

平成28年 8月 1日
若山牧水記念文学館
TEL 68 - 9511

一枝に五つのトマトすずなりになりてとりどりに色づかむとす

「黒松」収録

歌の意味

一枝にトマトが五つ鈴なりにになっている。中にはまだ青いものも見られるが、それぞれに赤く色づこうとしている。

歌の背景

大正12年の夏に詠んだ歌。第15歌集『黒松』に収録されている。
牧水は自宅の庭でさまざまな野菜を育てていた。赤く色づき始めたトマト。夏の日を
存分に浴び、収穫の日を待っている。栄養もあり、体を冷やしてくれるトマトを牧水は
酒の友としても愛していたに違いない。

熱〜い！

今年も短歌甲子園の夏がやってきました



今年で第6回を数える「牧水・短歌甲子園」
全国から予選を通過した高校生12チーム、総勢36名
が日向市に集います。

今年は、地元日向高校と富島高校が出場します。富島高校は初出場を果たしました。

ひとりひとりが自作の短歌を発表し、歌に込めた想いを伝え合います。そののち、相手チームが質問したり意見を交換し合います。

決して相手チームを批判することなく、情景や表現技法などの視点からより深く議論を交わしていきます。

高校生の研ぎ澄まされた感性には脱帽です。

今年は会場を覗いてみませんか。

日時：8月20日（土）9:20～17:30
一次リーグ

8月21日（日）9:00～正午
決勝トーナメント、表彰式

会場：日向市中央公民館

団体戦

昨年度優勝	宮崎県立延岡高等学校	(優勝 初)		
昨年度準優勝	福岡女学院高等学校	(優勝1回、	準優勝 初、	3位1回)
昨年度第3位	宮崎県立宮崎西高等学校	(優勝1回、	準優勝 1回、	3位 初)
昨年度第3位	岐阜県立飛騨神岡高等学校	(3位 初)		

個人戦（牧水賞）

じっちゃあよこれが二高の制服なん胸はりみせる彼岸の墓前

岩手県立盛岡第二高等学校 2年

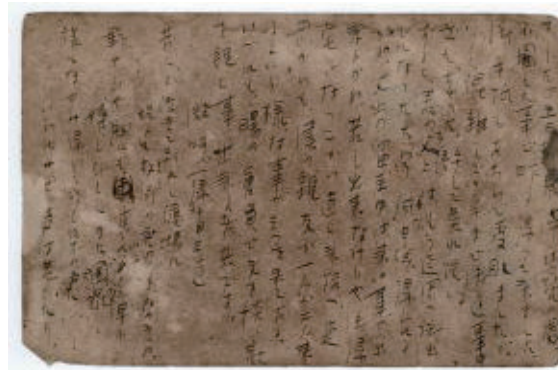
つのかけ ふうか
角掛 風香

牧水書簡紹介

新規資料公開展より



西郷村田代小川
小野涼風 君
坪谷 白雨松人



(文面のみ拡大)

消印、末尾の微吟(帰省三首)が明治35年の手帳に記されていることより、このハガキは明治35年に書かれたものであることがわかる。
旧制延岡中学校四年生の夏休み、都農の河野佐太郎宅(長姉スエの嫁ぎ先)へ行っていた牧水。このハガキは隣村の小野兵太郎(涼風)へ宛てたものである。短歌に通じている親友が訪ねて来るので、併せて兵太郎もぜひ来ないかと誘う内容である。
小野兵太郎は西郷村田代(現東臼杵郡美郷町西郷田代)出身で、牧水が延岡中学時代に発行していた雑誌『野虹』に、校外から参加していた一人である。同郷の歌人、小野葉桜とは親戚にあたる。

小野兵太郎(雅号 涼風、後には紫煙と号す)宛のハガキ
【執筆日】 明治35年8月6日
【消印】 坪谷 8月8日
田代 8月9日

まーだ四五日都農滞在の筈の處、不圖した事で昨夕帰つて来ました。御手紙もあちらで受取ましたが、ツイ混雑して、今まで御返事申さんぢやつた。許して呉れ給い。
すると、君の父上はもう延岡へ御出でになつただらう。何日頃帰られるかね。父上の留守中は来る事が出来るかね。若し出来なけりや、御帰宅になつてから直ぐ来給へ。延岡からも、僕の親友が一人か二人来るといふ様な事が云つて来てある。いづれも曙の會員で文を談じ歌を説く事の出来る者共です。

微吟 (帰省三首)

昔人と泣きて別れし渡場に始めて故郷の言の葉聞きぬ
野や山や胸にも車のめぐり早ふ嬉しひく人また国訛
旅になやみ歸りて叩く柴の戸にいらふる母の声は老ひたり

来館者の声

来館者カード、生家記帳ノートより

- 台湾大学で牧水研究をしている者です。牧水の生家を見る宿願がようやく果たせました。また来れる日を楽しみにしています。これからも牧水研究続けられますように。【台湾】
- 郷土の素晴らしい文人、牧水を誇りに思います。40数年を福岡に過ごし、今年懐かしいふるさとに帰って来ました。【日向市】
- かなしくて さびしくて いさぎよく 生きてく
千本松原の町から牧水さんの生地に行ってきました。水の流れが海にゆき着くように清しく
残りの時を！ でも牧水さんよりたくさん生きています。【静岡県田方郡】